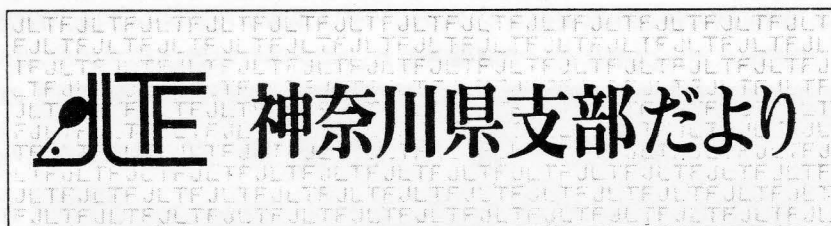


第27号



神奈川県支部だより

事務局

佐藤景子

有明にてフェデレーションカップ開催さる!!

日本テニス協会常務理事 本井 満

十月初旬にしては思いもかけないような霧雨が連日降り続き、関係者を悩ませたフェデレーションカップ東京大会は、奇跡的にも雨の間隙を縫って一日間だけの順延で済み、しかも6万人近い、延べ入場者という有明コートでの新記録を樹立して、無事終了しました事は、本当に喜ばしいことだと思います。

それも、世界のトッププレーヤーがほとんど顔を揃えたという魅力や、準々決勝までは進めなかったけれど、強敵スウェーデンに圧勝し、西ドイツに食い下った日本チームの健闘ぶりも大きく反映していることでしょう。また、運営面では、審判部門を中心にいろんな部署で活躍された、日本女子テニス連盟の皆さんの組織力とサポートに負うところが非常に顕著であったと感じています。

私は、本大会ではレフェリーの補佐としてのアシスタントレフェリーを担当させていただきましたが、幸運にも選手のプレーを比較的多く見ることができました。その中で特に印象的であったことは、アメリカチームの優勝でした。第一シードで、ナブラチロワ、エバートを揃える強豪が勝つのは当然かもしれませんが、印象に残ったのは「勝った」ということではなくて勝って行く過程にありました。毎日の二人の真摯なプレー態度は観衆の目を引きつけました。そこにはオリンピック以外、他のトーナメントにはない、星条旗を背負って戦うなにかがプラスされた姿が感じられました。また警備の関係で観客席の彼女達の近くにしばしば行くことがありましたが、あのスーパースター達が、お互いにプレーしている仲間にガッツポーズをとり、拍手と心からの声援を送っている様子を見ましたが、そこにはチームとしての素晴らしい「和」がありました。

対象的に感じられたのが世界のNo.1のグラフを擁する西ドイツが、ベスト8で脆くも崩れ去ったことです。No.2以下とはかなりの差があるにしても、充分にアメリカに対抗し得る力はあったように思います。

昔から言い古された平凡な言葉ですが、チームにおける「和」の大切さを改めて強く印象づけたフェデレーションカップでありました。



第22回 県支部シングルス・ダブルストーナメント

秋恒例の神奈川県支部シングルス・ダブルストーナメントは、青空のもと、10月16日より23日まで湘南スポーツセンターで開催された。エントリー数はシングルス16名。ダブルス23組とこじんまりとした大会でしたが、選手の実力の伯仲で、どの試合も見ごたえのある熱戦ばかりでした。

高杉・藤原組優勝!! 県支部ダブルトーナメント

久し振りに出場のリベランペア、若さ一杯のフレッシュペア等々皆それぞれの持味を発揮しての戦いに、どのコートも目の離せないゲームばかり。その中で昨年度優勝の高杉さんがペアを女子連新人の藤原さんに代え、ボレーやスマッシュを主体に若さあふれるプレーで勝ち進み、決勝戦で姫野・大谷組を接戦の末下し、優勝を手中に収めた。



優勝 高杉・藤原組 (亀ノ甲山・SSC)

準優勝 姫野・大谷組 (相模原グリーン)

第3位 河田・松丸組 (寒川ローン・湘南ローン)

優勝した二人は“苦しかった。簡単には勝たして欲せませんでした。”(藤原) “セカンドセットはほとんどがジュースだったので、1ポイント・1ポイントの積み重ねがとっても大変でした。でも初めて組んでの試合に優勝できてとても嬉しいです。これからも一緒に努力して頑張りたいと思っています。”(高杉)とコートサイドで喜びを語って下さいました。

ヤングミセスの杉本さん 優勝!! 県支部シングルストーナメント

今大会のシングルスにもダブルス同様トーナメント初登場の新人が頑張りました。後陣でのストローク合戦の準決勝で2時間半の苦しい試合を我慢で制した杉本さんが、その勢いで昨年度優勝のホルトさんとの決勝戦を乗り切った。



優勝 杉本 尚子 (戸塚泉)

準優勝 ホルト千恵子 (個人)

3位 金子 具代 (大磯ローン)

“一回戦から決勝までどれも大変でした。初めて出たので優勝など考えず、一回でも多くプレーをしたいと思っていました。この女子連のトーナメントは、相手が色々なタイプ、年齢の人でしたので試合のパターンを幅広く考えてプレーをしました。相手が私を知らなかったのラッキーでした。”と杉本さんは話して下さいました。

相模原

平塚

ブロック別 シングルストーナメント

ブロック	月 日	場 所	参加数	結 果
A	9月19日 21日	相模原市横山公園 テニスコート	76	優勝 齊藤 仁子 (亀の甲山) 準優勝 古川 本子 (夢見ヶ崎) 第3位 西谷真理子 (サントリー) 〃 伴野 修子 (亀の甲山)
B	10月2日 4日	本郷台テニスクラブ	125	優勝 白井 涼子 (本郷台) 準優勝 根岸 久子 (鎌倉宮カントリー) 第3位 土屋 幸 (エスタ) 〃 小山 カヨ (本郷台)
C	10月3日 5日	平塚市宮桃浜コート 湘南ローンテニスクラブ	99	優勝 中尾久美子 (伊勢原) 準優勝 可知 優子 (SSC) 第3位 星野 敏子 (湘南ハンドレッド) 〃 喜多 牧子 (小田急藤沢)

第 7 回 武 石 杯

本年度の武石杯も県支部トーナメントと同時に湘南スポーツセンターに於て開催された。多数の大先輩の方々の集合したコートサイドでは、話の輪が広がり、まさに年一度の同窓会といった感じのトーナメントになりました。その和やかな雰囲気の中、36組の選手の皆さんの味のあるプレーがコートに繰り広げられ、各クラス共決勝戦は実力伯仲、手に汗にぎるラリーの応酬に観客の応援も一段と盛り上がりました。



60才以上 (参加 8組)

- 優勝 木太・小林組 (東林間・湘南口)
 準優勝 白石・増田組 (柿ノ木台・希望ヶ丘)
 第3位 武石・大塚組 (鎌倉口・鎌倉宮カ)
 ク 村上・塩野入組 (鎌倉口・二宮)

55~59才 (参加 6組)

- 優勝 小野・木村組 (湘南・鎌倉口)
 準優勝 伊藤・寺井組 (鎌倉いずみ)
 第3位 小松・藤原組 (相模原グ・七里ヶ丘)
 ク 檜崎・溝口組 (鎌倉宮カ)

50~54才 (参加 22組)

- 優勝 富岡・新田組 (鵜沼TC・鵜沼グ)
 準優勝 登山・柳田組 (本郷台・太平台)
 第3位 茂木・角組 (本郷台)
 ク 安達・寺岡組 (茅ヶ崎ローゼ)

武石さんを見習います：“武石さんと3セット2時間半もして頂き喜んでます。武石さんまでまだ20年あります。今後とも先輩を見習って頑張りたいと思います”。(木太・小林組)

とても苦しかった：相変らずの強烈なドロップショットで相手を悩ませた小野さん。“相手がお上手なのでとても苦しかった。私達の出られる試合は数少ないので優勝できてとても嬉しい。”と一言。

気力で勝ちました：まだ現役の人達も多いこのクラス。苦しい戦いを勝ちぬいて“気力で勝ちました”。(新田) “思いもかけず優勝できました”。(富岡) 来年はもっと多くの皆さんの参加でより一層賑やかな大会になることを期待します。



木太・小林組



小野・木村組



富岡・新田組

ハンディキャップのある方々と一緒にテニスをしてみませんか!!

ハンディキャップテニスの普及と共に、裏からそれを支えるボランティアの需要も年々増加し、ハンディキャップテニス神奈川クラブ主催の練習会では球出しをして下さる方を募集しています。練習会は横浜と相模原とで各々月2回程です。2月に一度又は3月に一度位練習会に参加して下さいませんか。多数のご協力をお待ちしています。詳細につきましては下記迄ご連絡下さい。

大 場 初 子
 三 好 光 江

第11回 朝日レディーステニス

9月6日より始まった今回の朝日レディースは参加者 475組。県大会は、お天気にも恵まれ、3日間で終る事が出来ました。しかし、代表の三つの席を手に入れるのは大変な事でシード選手が次々と敗れる中、自分達のペースを守り、がんばりぬいた3組が勝ち取りました。全国大会は、11月15日より朝日生命久我山コートで行われ、三回戦に進みましたが、強豪兵庫の前にあと一步の所で敗れベスト8に進むことができませんでした。監督の小川さん、選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。来年も又チャレンジされる事を期待します。

神奈川県大会結果

優勝	浅沼栄子・武部愛子組 (百合ヶ丘ファミリー・亀の甲山)
準優勝	杉山泰代・二宮典子組 (カトレア・大磯ローン)
第三位	藤倉裕子・佐藤礼子組 (相模原テニスクラブ)

朝日レディースを振り返って

監督 小川 加代子



県大会が決まり、顔合せの時、“ちょっと厳しいかな”と思いましたが、県代表になったことで喜んでいてはいけません。戦いはこれからで、「勝って兜の緒を締めて」全国大会へアタックしようと誓いました。私も監督に指名されるとは思っていませんでしたので、何の心の準備もなく引受けたのはいいですが、選手の皆さんに何をしてあげられるか不安でした。

団体戦のおもしろさ、厳しさを選手の皆さんと分かち合い、手に汗にぎり、力のかぎりの声援を背に大好きなテニスでアマチュアではあるが全国大会という大舞台を踏み、人生の思い出の一ページになる様協力しようと思いました。

結果はおしくも健闘むなく三回戦で終わりましたが、45才にして人生勉強をさせて頂き、選手の皆さんも多勢の人の世話により又応援により最高の経験をさせてもらい、心より「感謝」という気持ちにより一層感じた時語り合った時、試合は負けただけで楽しい大会でした。

12回大会を期待します。大会関係者の皆様、ありがとうございました。

浅沼栄子・武部 愛子組



まず最初に、皆様のご声援に心より感謝し、お礼を申し上げます。大会のお世話をして下さった女子連の方々、連日応援に駆けつけて下さった仲間の方々本当にありがとうございました。

喜びに浸るのもそこそこに、迫る全国大会の事を考えると、責任感で胸が一杯になります。皆様のアドバイスを素直に受け入れて、11月15日までに何かひとつでも多くのものを学べればと思っております。宜しくご指導をお願い致します。

さて、私共無欲の即席ペアがレディース大会の一番切符を手に来たのは「何故かしら？」と考えてみました。

まず第一は練習時間の少ない即席ペアだからこそ、相手のテニスを信頼し、話し合い、仲良くプレー出来たこと。二つ目は幸運の女神が味方についてくれていた様な、ラッキーポイントがいくつもあったこと。第三はノーアドバンテージのゲームを“自分達の為のポイント”と常に唱え合い挑んだこと。まだまだ考えられますが、最後に崖っ淵のピンチでも諦めないで挽回しようと二人で努力したこと……などが思い当たります。

この様な事は勝ったからこそ言えるのかもしれませんが、お陰様でとても貴重な経験をさせて頂きました。この体験を糧に、全国大会も小川監督を中心に選手の皆様と共に精一杯頑張りたいと思います。応援して下さいね。

二宮典子・杉山泰代組



違う世界の出来事としてとらえていた、朝日レディースに、今年はじめて出ささせていただきました。素晴らしい天候に恵まれ、初秋の陽光も心地良く、青空、快晴のもと、緑多い素晴らしい環境の中での等々力コートでテニスが出来ると感じながら、緊張の中初日を迎えました。しかし、一日一日、緊張の度合も強くなってまいりましてどの試合も一セットめがタイブレーク、二セットめも接戦という苦しい戦いが続きました。しかし、ペアーの二宮さんの冷静なプレイにささえられ、どうにか乗り切って最終日を迎えた時は、今までの様々な事が思い返され、感無量でございました。そしてここまできた以上、自分のテニスの総決算をして、持てる力を出し切れたらと思いつ『己に克つ』を心に言い聞かせ、試合にのぞみました。思いもかけず、準優勝させて頂き、その後、日が経つにつれよろこびも増し、一方では、責任も強く感じて来ております。今では、全国大会を三ペアー揃って団結し、がんばってこうと練習に励んでおります。

最後になりましたが、今大会、種々お世話下さいました役員の方々、これまでお教え下さいましたコーチの諸先生方、練習相手になって下さいました方々、更には連日応援にかけつけて下さいましたテニス仲間の方々皆様に厚くお礼を申し上げます。有難うございました。(杉山 記)

藤倉裕子・佐藤礼子組



平成元年度、私達が県代表に選ばれるなんて、この上ない喜びを感じています。レディース大会本選に出るだけでも大変だと思っていたのに今だに信じられない気がします。二人がここまで来られたのも、クラブの人達をはじめ、諸先輩方の暖かいアドバイスや、私達を応援して下さいました方が居ればこそと、深く感謝しています。

「一球一球、自信を持って打つ、そして、とにかく、一球でも多く相手のコートに返す」という言葉をかみしめ、どんな相手にも、無心で戦いました。この言葉は、私達のテニス人生の中の最高の教訓と思いい、これから先も、深く胸に刻み続けたいと思っています。

今の気持ちを大切に、全国大会に向け、尚一層の努力をし、悔いのない試合が出来るように、頑張りたいと思います。

最後に、陰ながら応援してくれた家族に、心から感謝すると同時に、これからもよろしくお願ひしたいと思います。

感謝状を頂きました!!



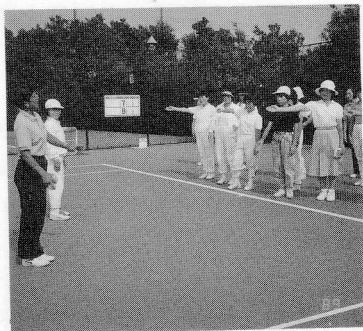
昨年12月、神奈川県支部20周年を祝し、藤沢市の秋葉台文化体育館において、大フェスティバルが開かれたことは、皆さんの記憶にも新しい事と思います。その一部であったチャリティーバザーでは、本当に多くの皆さんの御協力により、90万円もの収益を上げることが出来ました。この収益金の内30万が藤沢市を通じ愛の輪基金に寄附がなされた事はすでに御存知と思いますが、この度、この行為に対し、藤沢市より神奈川県支部に感謝状が贈呈されることとなり、去る10月17日、大場支部長が市民会館ホールにおいて藤沢市長より頂いてまいりました。

改めて皆様の御協力に感謝し、ここに御報告致します。

JALスーパージュニア大会を終えて

審判部 北原 洋子

秋晴れの中、10月23日～29日迄、湘南スポーツセンターにてJALスーパージュニア大会が開催されました。審判部総出となり、初めて審判する方も多く、ベテラン、新人が半々という日もあり新人の努力、ベテランの厚意と審判技術の指導で見事にやりとげる事が出来、主審のテクニクの



素晴らしいが、大成功につながったと思います。本井レフェリーより『ラインの見方、声の大きさ、判断の速さ、主審と線審のチームワークの良さ』を誉めて頂き、嬉しくなりました。今年は、ANAカップで、神奈川県協会審判の中に参加させて頂き、レンドル、エドベリ、ピランデル、アガシのエキジビジョン、全日本フェデレーション大会では、全国公認指導審判の方と共に線審をする事が出来、ウインブルドン、USAオープンのように、男女混成チームも夢ではなく、これからの審判活動は変わりつつあるようです。思うに、女子連の審判は、自分達の大会審判だけでなく、

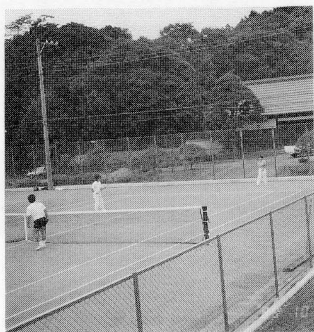
ジュニア育成の為に、又現在のように大きなイベント大会を立派にこなす様になるとは、3年審判部を担当して、驚きと、主婦パワーの凄さに感心しております。始めに戻りますが、JALスーパージュニア大会は、色々な面で心に残る大会です。審判運営、新人のデビュー、チーフの育成ベテランの指導の確かさを見る事ができ、皆様のお陰で最終日には胸にジーンとききました。審判もテニスの一部です。テニスの技術と共にルールを勉強し、マナーを向上させ、神奈川県支部ここにありと胸を張って下さい。最後に審判は、教えてもらう事ではなく、学ぶ姿勢が大切ではないかと思いました。

ふ れ あ い

湘南ハンドレッドテニスクラブ誕生

飯尾 尚子

この秋、藤沢市の東南の隅に小さなクラブが誕生しました。名前は湘南ハンドレッドテニスクラブと言ひ、深い緑の木立を背にした美しい3面のサンドグラスコートからは、朝に夕べに遠く富士山が眺められます。



このクラブは、今年の初めに湘南グリーTCのコートがブルトローザーで無惨に破壊された事に始まり、それから10ヶ月のテニス好き仲間達の熱意と前向きのチームワークの結集として出来上がったものです。

有り難いことに、地主の方は大変徳望のある方で、私達の性急な願いに好意をもって応じて下さり、無償で土地を借りる事が出来ました。従ってこのテニスクラブの特徴は、会員達の手づくりであること。非営利であること。もう一つ挙げれば、いづこも同じく女性上位ということかな。

テニスクラブは、生きもののように、そこに関係している人達のテニスに対する姿勢、強いては生きる姿勢でどんな風にも変化します。多数の人が楽しんだ湘南グリーンは過去のものとなってしまいましたが、ここにまた新しい湘南ハンドレッドTCが生まれました。私達は新クラブで新しいテニスライフを目指そうとしています。女子連の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

◇ 編集後記 ◇

今年になって3回目の支部だよりの発行が間近になり、もう一年が過ぎてしまったといささかおどろいています。たくさんの方々の御協力を頂きありがとうございました。来年は茂原さんにバトンタッチをいたします。(横井)

今年一年は横井さんのアシスタントでした。良き先輩のお陰で広報の仕事も少しわかりかけてきましたがまだまだ未熟です。良き支部だよりのため、引き続き皆様の御協力をお願い致します。(茂原)